

# 令和6年度 教育・保育実践コンパスレポート

～乳幼児教育支援センター事業報告書～

私たちの教育・保育をもっと楽しく！



世田谷区乳幼児教育支援センター

# 目次

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| <b>モデル研究中間報告</b> .....            | 1  |
| 園・校における架け橋期の教育の充実                 |    |
| 【みどりの学び舎】八幡山幼稚園・松沢保育園・八幡山小学校 ..   | 2  |
| 【砧の学び舎】砧幼稚園・砧小学校 .....            | 5  |
| 園の教育・保育の評価（自己評価を中心として）            |    |
| ベネッセ桜新町保育園 .....                  | 8  |
| 中町幼稚園 .....                       | 11 |
| 西之谷保育園 .....                      | 14 |
| <b>実践充実コーディネーター派遣事業報告</b> .....   | 17 |
| 鎌田のびやか園 .....                     | 18 |
| 上馬保育園 .....                       | 19 |
| 上北沢保育園 .....                      | 20 |
| 小梅保育園 .....                       | 21 |
| 烏山北保育園 .....                      | 22 |
| 三軒茶屋保育園 .....                     | 23 |
| 三茶こだま保育園 .....                    | 24 |
| 常德幼稚園 .....                       | 25 |
| 世田谷ベアーズ .....                     | 26 |
| 中町保育園 .....                       | 27 |
| 松丘幼稚園 .....                       | 28 |
| マリア保育園 .....                      | 29 |
| ミアヘルサ保育園ひびき上馬 .....               | 30 |
| 南奥沢保育園 .....                      | 31 |
| めぐみ保育園 .....                      | 32 |
| もみの木保育園太子堂 .....                  | 33 |
| 用賀保育園 .....                       | 34 |
| わかくさ保育園 .....                     | 35 |
| <b>令和6年度乳幼児教育支援センター事業実績</b> ..... | 36 |

# モデル研究中間報告

# 世田谷区乳幼児教育支援センター

## モデル研究 中間報告 「園・校における架け橋期の教育の充実」

みどりの学び舎 世田谷区立八幡山幼稚園

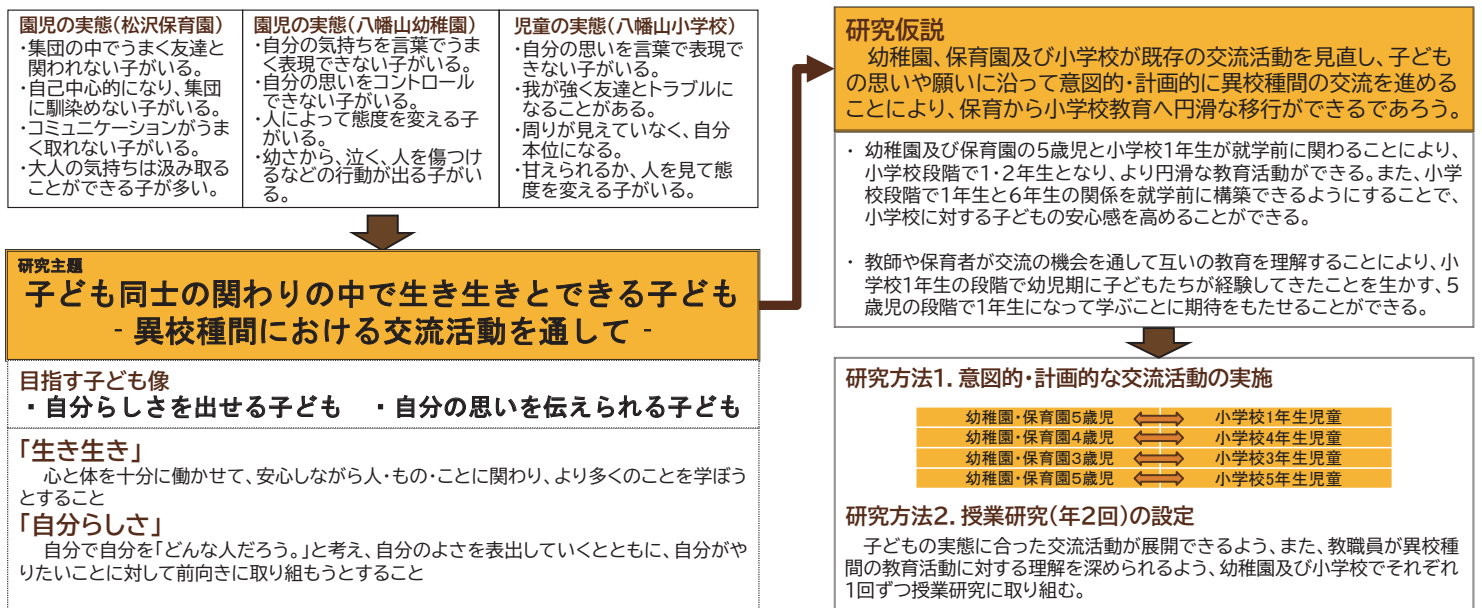
世田谷区立松沢保育園

世田谷区立八幡山小学校



講師 武蔵野大学 箕輪 潤子 氏

### 研究構想図





## 研究経過

### 幼・保・小 会議・打ち合わせ・振り返り

|    |        |                                                                                                                              |        |
|----|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 1  | 4月25日  | 世田谷区教育委員会による「モデル園・校」の説明                                                                                                      | 八幡山小学校 |
| 2  | 5月 9日  | 第1回幼保小研究会 幹部会<br>・研究主題及び目指す子ども像の設定                                                                                           | 八幡山小学校 |
| 3  | 5月23日  | 第2回幼保小研究会 幹部会<br>・交流活動についての見直し及び打合せ                                                                                          | 八幡山小学校 |
| 4  | 6月12日  | 第3回幼保小研究会 担当者会議<br>・交流活動の日程及び内容の打合せ<br>・研究授業の日程の調整                                                                           | 八幡山小学校 |
| 5  | 7月18日  | 第4回幼保小研究会 担当者会議<br>・第1学年の交流活動(1回目)の振り返り<br>・第5学年の交流活動(1回目)の振り返り                                                              | 八幡山小学校 |
| 6  | 7月23日  | 第5回幼保小研究会 幹部会<br>・研究の視点の設定<br>・指導案及び実施計画案等の形式の検討                                                                             | 八幡山小学校 |
| 7  | 9月 2日  | 幼保小研究会 全体会<br>・顔合わせ<br>・モデル研究について<br>・幼稚園、保育園の教育についての説明<br>・「架け橋」に経験させたいことの確認                                                | 八幡山小学校 |
| 8  | 9月 2日  | 第6回幼保小研究会 担当者会議<br>・第1学年の交流活動(2回目)における指導案検討<br>・第3学年の交流活動における指導案検討<br>・第4学年の交流活動における指導案検討<br>・第5学年の幼稚園及び保育園訪問について            | 八幡山小学校 |
| 9  | 9月18日  | 第7回幼保小研究会 担当者会議<br>・第1学年の交流活動(2回目)における指導案検討                                                                                  | 八幡山小学校 |
| 10 | 10月 9日 | 第8回幼保小研究会 担当者会議<br>・交流活動の内容の打合せ                                                                                              | 八幡山小学校 |
| 11 | 12月19日 | 第9回幼保小研究会 担当者会議<br>・第1学年の交流活動(2回目)の振り返り<br>・第1学年の交流活動(3回目)の打合せ<br>・第3学年の交流活動の振り返り<br>・第4学年の交流活動の振り返り<br>・第5学年の交流活動(2回目)の振り返り | 八幡山小学校 |
| 12 | 2月26日  | 第10回幼保小研究会 幹部会及び担当者会議<br>・第1学年の交流活動(3回目)の振り返り<br>・次年度の方向性について                                                                | 八幡山小学校 |

## 交流計画

### 【第1学年児童及び5歳児】

| 日時                                                       | 内容                                                                |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 1 令和6年 7月 2日(火)<br>2校時[ 9時35分から10時20分まで]                 | ・小学校において、第1学年の児童と年長児が顔合わせするとともに、第1学年の児童がグループごとに企画したレクレーションで絆を深める。 |
| 2 令和6年10月21日(月)<br>5校時[13時15分から14時まで]<br>[14時から15時15分まで] | ◎研究授業及び協議会<br>会場:世田谷区立八幡山小学校                                      |
| 3 令和7年 2月17日(月)<br>2校時[ 9時35分から10時20分まで]                 | ・小学校では、どのような学習があるか、どんな生活をするのかを、第1学年の児童が年長児に教える。                   |

### 【第3学年児童及び3歳児】

| 日時                                       | 内容                                                   |
|------------------------------------------|------------------------------------------------------|
| 1 令和6年10月28日(月)<br>2校時[ 9時35分から10時20分まで] | ・小学校において、第3学年の児童が教室の中を案内するとともに、運動会で踊ったダンスを披露し、一緒に踊る。 |

### 【第4学年児童及び4歳児】

| 日時                                       | 内容                                                     |
|------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 1 令和6年10月29日(火)<br>2校時[ 9時35分から10時20分まで] | ・小学校においては総合的な学習の時間で学習した手話を歌とともに幼児に教える。4歳児は日頃歌っている歌を歌う。 |

### 【第5学年児童及び5歳児】

| 日時                                                                                                                          | 内容                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 令和6年 7月 8日(月)<br>2校時[ 9時35分から10時20分まで]                                                                                    | ・小学校において、第5学年の児童と年長児が顔合わせをするとともに、第5学年の児童が企画したレクレーションで絆を深める。                                                                                   |
| 2 令和6年 9月 9日(月)<br>3校時[10時40分から11時25分まで]<br>4校時[11時30分から12時15分まで]<br>※見学時間<br>①10時40分から11時10分<br>移動<br>②11時30分から12時         | ・第5学年の児童が幼稚園及び保育園を見学し、教員や保育士の動きを理解するとともに、幼児の実態をつかむ。                                                                                           |
| 3 令和6年10月17日(木)<br>4校時[11時30分から12時15分まで]<br>5校時[12時25分から14時10分まで]<br>6校時[14時15分から15時まで]                                     | ・幼稚園教諭から、クラスごとに、幼児に対する支援の在り方、歌及び手遊び等について学ぶ。                                                                                                   |
| 4 令和6年11月13日(水)<br>2校時[ 9時35分から10時20分まで]<br>令和6年11月20日(水)<br>5校時[13時から13時45分まで]                                             | ・第5学年1組及び第5学年2組の児童が、保育士と保育助手の打合せをする。<br>・第5学年3組の児童が、幼稚園教諭と授業の打合せをする。                                                                          |
| 5 令和6年11月25日(月)<br>2校時[ 9時35分から10時20分まで]<br>3校時[10時40分から11時25分まで]<br>令和6年11月27日(水)<br>5校時[13時15分から14時まで]<br>[14時から15時15分まで] | ・第5学年1組及び第5学年2組の児童が、それぞれ幼稚園並びに保育園を訪問し、保育助手を務める。<br>◎研究授業<br>会場:世田谷区立八幡山幼稚園<br>※学び舎の日であるため、各校に周知して参観を広く呼びかける。<br>・第5学年3組の児童が、幼稚園を訪問し、保育助手を務める。 |

# 5歳児と第1学年(10月21日) 生活科「あきとともだち」研究授業

## 【振り返り】

## ○成果 ◆課題

- 児童は自分の思いを具体化することができた。5歳児は自由に遊ぶ時間を設定したことで、やりたいことを選び、楽しむことができた。
- 5歳児は小学校への期待が高まり不安感が減っている様子が見られた。また、児童は他者意識が高まった。
- 交流後には、5歳児たちは自分でどんぐりごまを作っていた。4歳児に回し方を優しく教える姿も多く見られた。

◆班の形や配置の工夫が必要である。

◆課題面の振り返り(反省など)は5歳児がいない場面で行った方がよい。



# 5歳児と第5学年(11月27日) 総合的な学習の時間「お兄さん、お姉さんになりたいな」 研究授業

## 【振り返り】

## ○成果 ◆課題

- 5年生児童はこれまでの学習内容が今日につながり、迷ったときにも教師や保育士を頼らず、見守りながら5歳児優先に行動することができていた。
- 5歳児にとって5年生児童は「ミニ先生」だけではなく、「仲間」でもあった。5年生児童の動きが入ることで、5歳児の遊びにも変化がもたらされた。
- 5歳児は、5年生児童から刺激を受けたことを事後に遊びに取り入れ、更に共通の目的をもって多くの友達と一緒に楽しむ姿が見られた。
- ◆5年生児童は、もっと自分を出して楽しんでよかった。
- ◆5年生児童の変容を見るためには、繰り返し交流を重ねる必要がある。
- ◆園庭で出会った時から、5年生児童は目的意識をもって5歳児に関わり、交流が始まっていた。本時のめあてを確認することは事前に行っておいたほうがよかった。



## 研究の全体的な成果と課題

### ○成果

小学校、幼稚園及び保育園で打合せを重ねたことにより、教師並びに保育士の指導・援助の在り方を共通理解でき、交流活動においても指導者の役割を意識して児童及び幼児に関わることができた。

交流後には、児童及び幼児ともに「相手ともっと関わりたい」という思いを強くもった。交流活動を通して、相手に親しみを感じることができた。

児童は校内の下級生に対して進んで関わって優しく接する場面が多く見られた。幼児についても園内で同様の姿があり、人との関わり方に広がりがあった。

保護者・地域住民からの交流活動に対する肯定的な意見があり、就学に対する不安が少し軽減されてきている。

### ●課題

交流活動を通して、互いの校種について知ることができたが、より理解を深めるために、日常の生活場面や学習場面等を見合う必要がある。

どの学年の交流活動も繰り返し取り組めるように指導計画を見直し、児童及び幼児が主体的に活動を展開できるようにする。活動を通して、児童及び幼児の身に付けたい力を明確にする。

児童及び幼児の変容はあったが、教師並びに保育士の主観とならないように、さらに児童及び幼児の学習・行動の記録を細かく取り、分析する必要がある。

幼稚園及び保育園の環境についてさらに理解を深め、児童が主体的に安心して行動できるように引き続き小学校の環境を整える。

# 世田谷区乳幼児教育支援センター

## モデル研究 中間報告 「園・校における架け橋期の教育の充実」

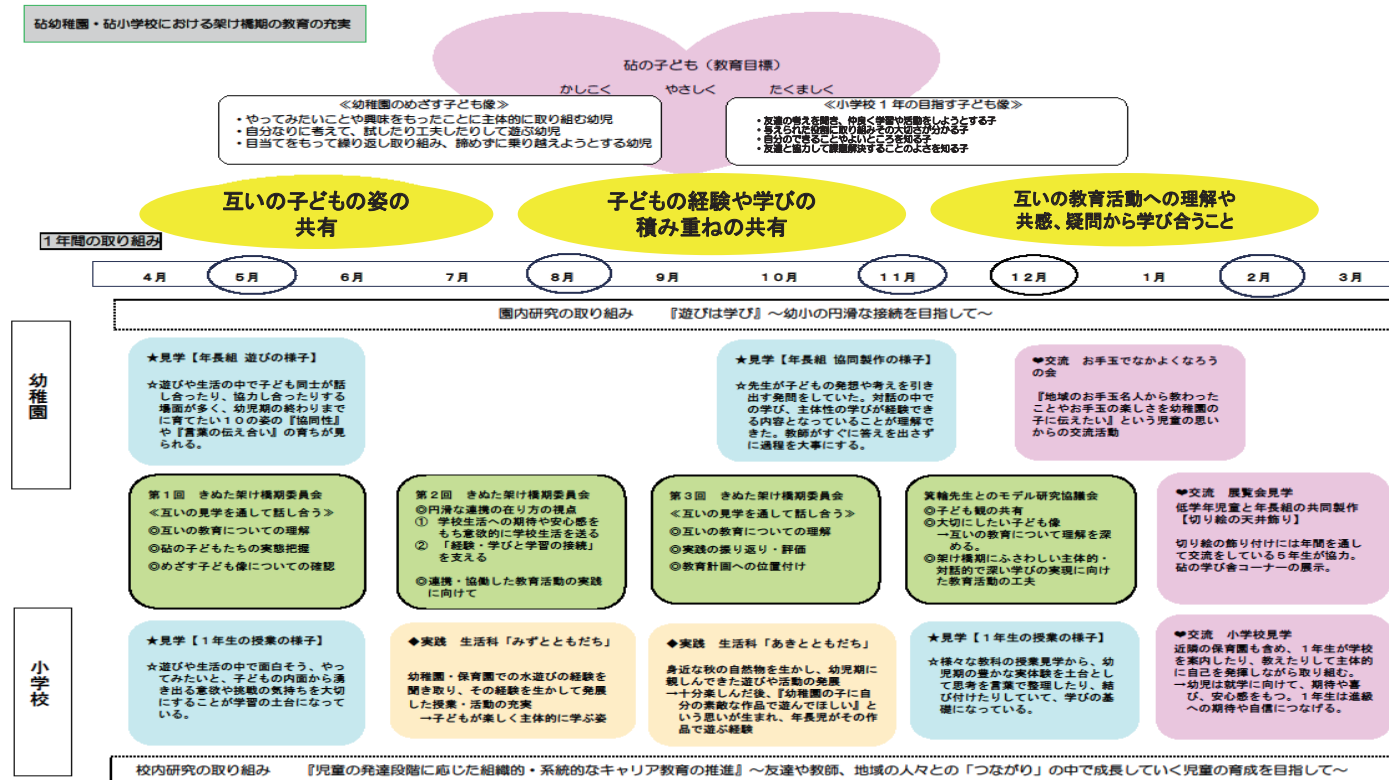
砧の学び舎 世田谷区立砧幼稚園

世田谷区立砧小学校



講師 武蔵野大学 箕輪 潤子 氏

砧幼稚園・砧小学校における架け橋期の教育の充実

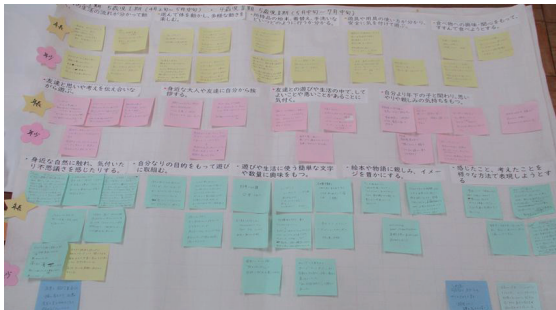




## 幼稚園 園内研究での実践・取組

ドキュメンテーションを作成しながらの話し合い

↓  
読み取った幼児の姿や育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に向かっている過程の姿として、教育計画と照らし合わせる



世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム改訂委員会が作成した「架け橋期に経験させたい内容や配慮点(例)」に示された内容を参考に、2年間の育ちを捉える

### 教育計画

| からたのびかな体             | 1日の生活の流れが分かっ動く | 進んで体を動かす、多様な動きを楽しむ | 所持品の始末、書替え、手洗いなど、いろいろなことを自分で行う | 道具や材料の使い方が分り、安全に楽しく遊べる | 食べ物への興味・関心をもつ | その他          |
|----------------------|----------------|--------------------|--------------------------------|------------------------|---------------|--------------|
| 友達と遊びたい、友達と遊ぶ楽しさを味わう | 友達と遊ぶ楽しさを味わう   | 友達と遊ぶ楽しさを味わう       | 友達と遊ぶ楽しさを味わう                   | 友達と遊ぶ楽しさを味わう           | 友達と遊ぶ楽しさを味わう  | 友達と遊ぶ楽しさを味わう |
| 友達と遊ぶ楽しさを味わう         | 友達と遊ぶ楽しさを味わう   | 友達と遊ぶ楽しさを味わう       | 友達と遊ぶ楽しさを味わう                   | 友達と遊ぶ楽しさを味わう           | 友達と遊ぶ楽しさを味わう  | 友達と遊ぶ楽しさを味わう |
| 友達と遊ぶ楽しさを味わう         | 友達と遊ぶ楽しさを味わう   | 友達と遊ぶ楽しさを味わう       | 友達と遊ぶ楽しさを味わう                   | 友達と遊ぶ楽しさを味わう           | 友達と遊ぶ楽しさを味わう  | 友達と遊ぶ楽しさを味わう |

主体的な遊びや生活を通しての学び

2年間を見通しながら経験の積み重ねを意識した保育の計画・実践から学びを小学校へつなぐ

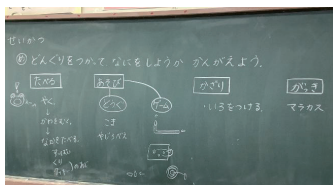
## 小学校 幼児期の『経験・学び』を小学校の学習につなぐ実践

『みずであそぼう～なつまつり～』

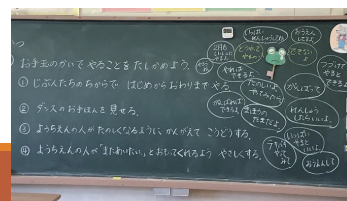
7月『なつとともだち』  
・みずであそぼう



『きぬたのあき みつけた』

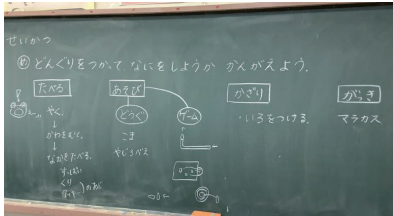


『おてだまでなかよくなるの会』  
(幼稚園と小学校の交流)



# 砧小学校 実践 生活科『あきとともだち』 ○●どんぐりでつくってあそぼう●○

①幼稚園での経験を生かして、発展的な遊びを考えている時の板書



③「幼稚園の子に遊んで欲しい」という子どもの願いから



②自分が作りたい遊び道具を作りやすい環境構成



どんぐりこま、  
どうしたら  
もっとよく回るかな

どんぐりパラシュート、  
もっときれいに落とし  
たいな。色を塗ろう。



うまく遊べるか、  
確認しよう。

「砧の秋、見つけたよ」  
コーナーを作り  
ました。

幼稚園  
経験・学び

つながり

小学校  
主体的・対話的で  
深い学び

## 1年間の取り組みを通しての成果と課題

成果

教員同士の連携を図ることで、  
互いの教育について知り、理解を深めることができたこと

互いの違いを知る

幼児教育



話し合い

学校教育

いかす

課題

教育計画の位置付け、体制作りの**充実**を図ること

# 世田谷区乳幼児教育支援センター

## モデル研究 中間報告 「園の教育・保育の評価（自己評価を中心として）」

株式会社ベネッセスタイルケア  
ベネッセ桜新町保育園



講師 和泉短期大学 松山 洋平氏  
和泉短期大学 星 早織氏

### テーマ 「振り返りの達人になろう！ ～1/31(31分の1) のその子らしさに着目して～」

テーマ設定の理由：

- これまでの振り返り(記録)を見返した際に、子どものしていることの姿の共有や、保育者の感想に留まる内容に課題を感じた。

⇒ 一人ひとりの子どもの内面の理解に繋がる振り返りを行いたいと思い、このテーマを設定した。

＜実践したこととその経過＞

#### ○園全体として

- ・各クラスでの振り返りの場を毎日15-30分確保している。
- ・昼礼を毎日実施し、各クラスの子どものエピソードを共有している。
- ・ノンコンタクトタイムを取り入れ、じっくりその子について考える時間を確保している。

#### ○クラスとして

- ・毎日の振り返りの中で「保育者のまなざし」を意識している。

★目の前の子どもの姿から子どもの思いや育ちまでを汲み取り、語り合っている。



## 3回の研究を通して気づいたこと

- ・異年齢という「枠組み」にとらわれてしまって子どもを見る視点が狭まっていた。  
「異年齢」=「**子どもの社会**」として捉えてみると・・・  
年齢や発達という枠組みを超えて個々の思いや育ちがあるということに気づくことができた。
  - ・言動が目立つ子に目が行きがちで子どもの姿の捉えに偏りがあった。  
私たちが大切にしている「**その子らしさ**」に立ち返ると・・・  
子どもの数だけ思いや願いがある。「心のつぶやき」「声にならない声」に聴き入ってみることがヒントに。
- ⇒ 子どもの内面を理解するために「**子どもの心が動く瞬間**」「**思わずそうしたくなるなにか**」に注目していった。

## 変化していったこと：振り返りの視点

- ・子どものエピソードの共有
- ・他クラスからの客観的な視点での意見交換



昼礼の様子

最近のAちゃん  
の姿は・・・

他のクラスは  
どう思う？

- ・子どもの姿から思いや願いを汲み取る視点  
(その子になって考える)
- ・仲間との語り合い



クラスMTG・クラス会議

この時、  
Bくんは本当  
はどうした  
かったのかな

もしかしたら  
こんな気持ち  
だったのかな



# 変化していったこと：室内環境

「**その子らしさ**を引き出す環境とは？」

- ・個々に探求できる空間として室内環境の工夫
- ・子ども達の集いの場をホッとできる隅へ移動



廃材の常設  
素材(折り紙)のレイアウトの工夫



子どもたちの集いの場の移動

## 次年度に向けて

引き続き、子どもの内面の理解に繋がる保育の振り返りを大切にしながら・・・

- ・**子どもの姿から**どう**次の計画**に活かしていくか？を考えていく
- ・自分たちが**大事にしていること**・**スローガン**を考えて実践してみる

# 世田谷区乳幼児教育支援センター

## モデル研究 中間報告

### 「園の教育・保育の評価（自己評価を中心として）」

#### 「一人一人が笑顔で園生活を送るために」

～振り返りを通して明日につながる保育を考える～



世田谷区立中町幼稚園

講師 東京成徳短期大学 大澤 洋美氏  
東京成徳短期大学 小坂田 摩由氏

#### 🏠 本園の幼児の実態

- ・人と関わる経験が少なく必要な場面で言葉で表現することが難しい
- ・教師が設定した遊びでは楽しむことができるが、遊びに関して受け身である
- ・単学級・少人数学級である
- ・特別な配慮を必要とする幼児、外国につながるのがある幼児が多く在籍している

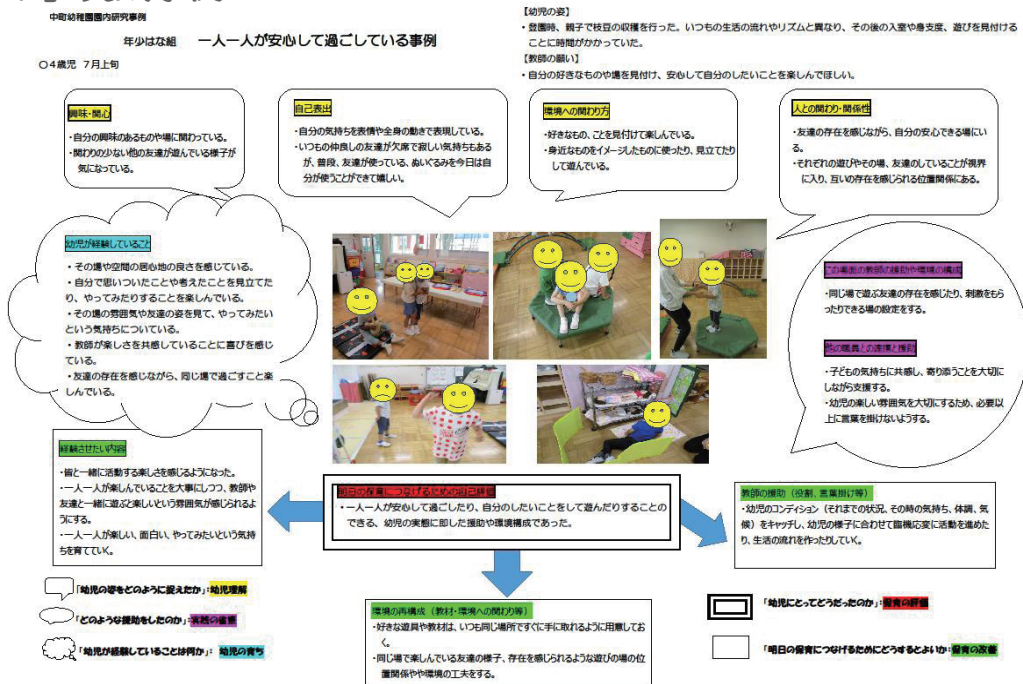
#### 📋 本園の課題

- ・個別最適な学びの保証
- ・学級経営の工夫
- ・教師のチーム力の向上
- ・多様性への配慮、個別の支援が必要である

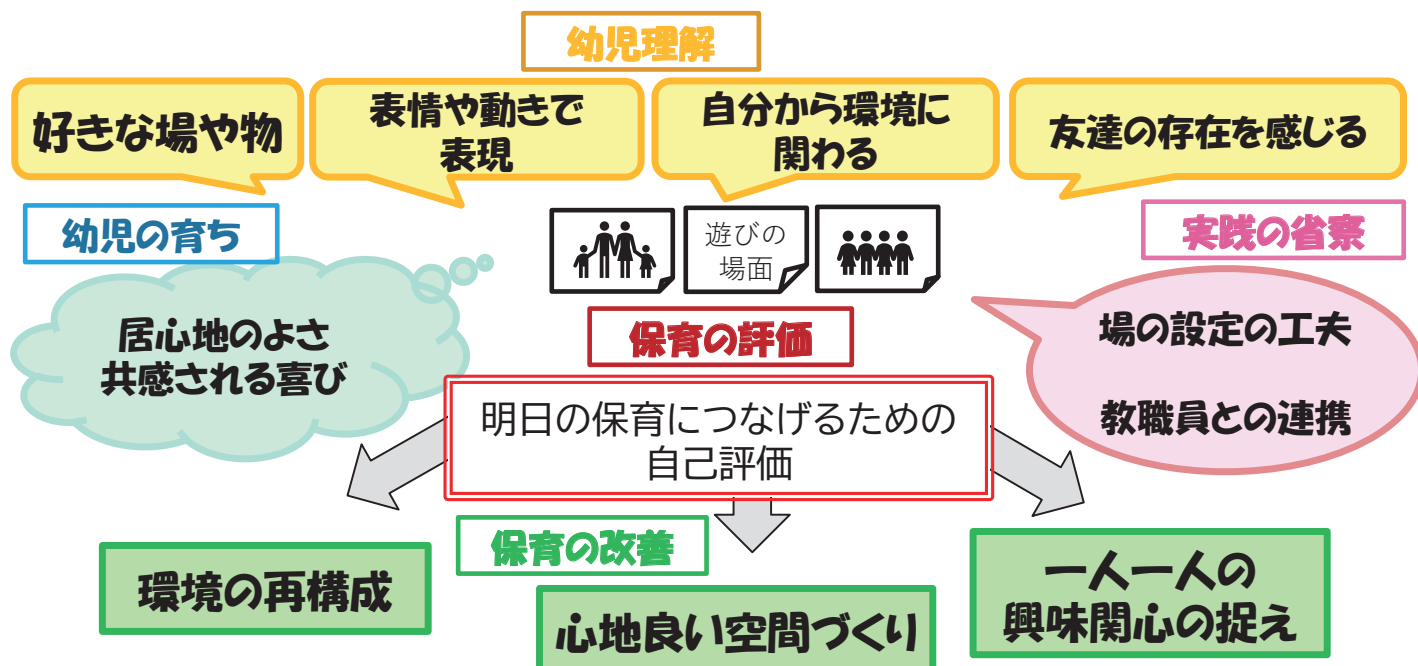
#### 📷 研究の内容と方法 📋

- 遊びの場面を写真やビデオで撮影し気付いたことを語り合い、幼児の姿を分析する。
- 先行研究を活かした「振り返りシート」を作成し、視点に沿って遊びを読み取り明日につながる保育に向けて、必要な援助を検討する。
- 講師の先生を招いた研究保育の実施（3回）

## 「振り返りシート」実践事例



## 振り返りシート 実践事例



## 講師より

- 「振り返りシート」は、項目をすべて埋めることに捉われず、振り返りを通して見えてきたことを評価し、保育の改善につなげる。
- 子どもの姿から、楽しんでいた場面も振り返り分析し意味付けていくことが大切である。
- 振り返りを通してあしたの保育を考えることで、教師自身が育ち、子どもたちの育ちも喜べるようになる。
- 今日の保育の中で子どもと満足感を共有できたことは何か、子どもの何が育ったのかを考え、あしたはどんな素敵なあしたになるかを考えることが振り返りの楽しさである。

## 今年度の振り返りと次年度に向けて

### <今年度の振り返り>

- ・「子どもにとってどうだったのか」という視点で教育・保育を評価することの大切さを改めて実感した。
- ・幼児理解において「視点をもって行うこと」「複数で行うこと」が多面的な理解につながることを再確認した。
- ・振り返りシートは、振り返りのプロセスを「見える化」することで、保育を語り合ったり、考えたりするための手がかりとなった。

### <次年度に向けて>

- ・振り返りを通して、幼児が個別最適な学びを展開できるようにする。
- ・保育を皆で語り合い、継続的、組織的な保育の評価を行っていくことで、チームとしての教育力を高めていくと共に、日々の実践に活かす。



# 世田谷区乳幼児教育支援センター

## モデル研究 中間報告

## 「園の教育・保育の評価（自己評価を中心として）」

世田谷区立西之谷保育園

講師 昭和女子大学 遠藤 純子氏  
昭和女子大学 鈴木 祥子氏



## テーマ 「明日が楽しみになる保育とは」

### テーマ設定について

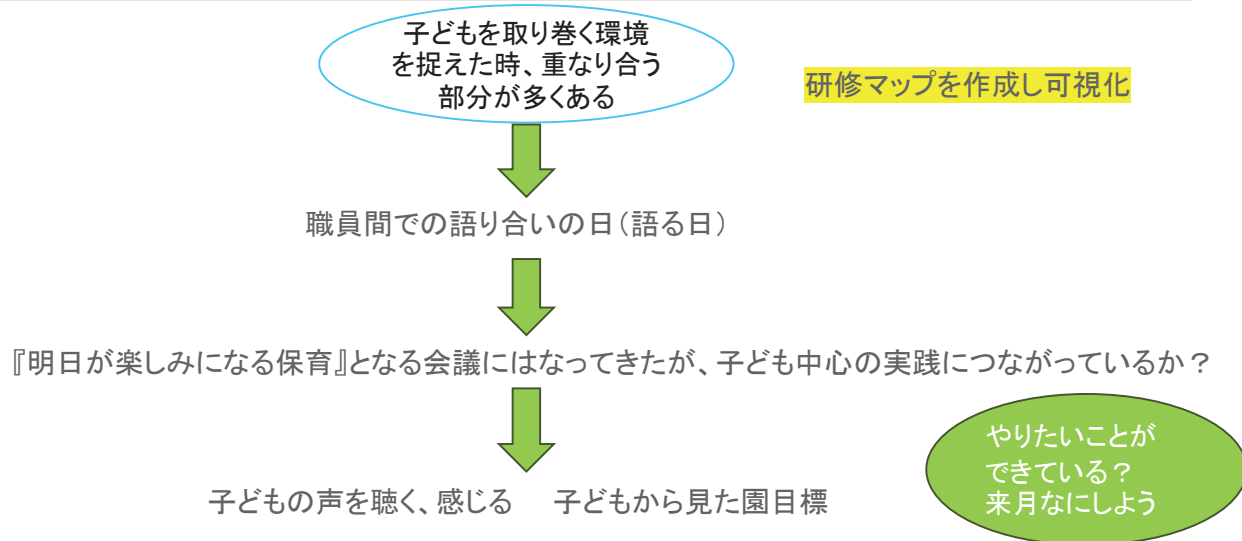
### 内容と方法

#### 【園の取組みの見直し】

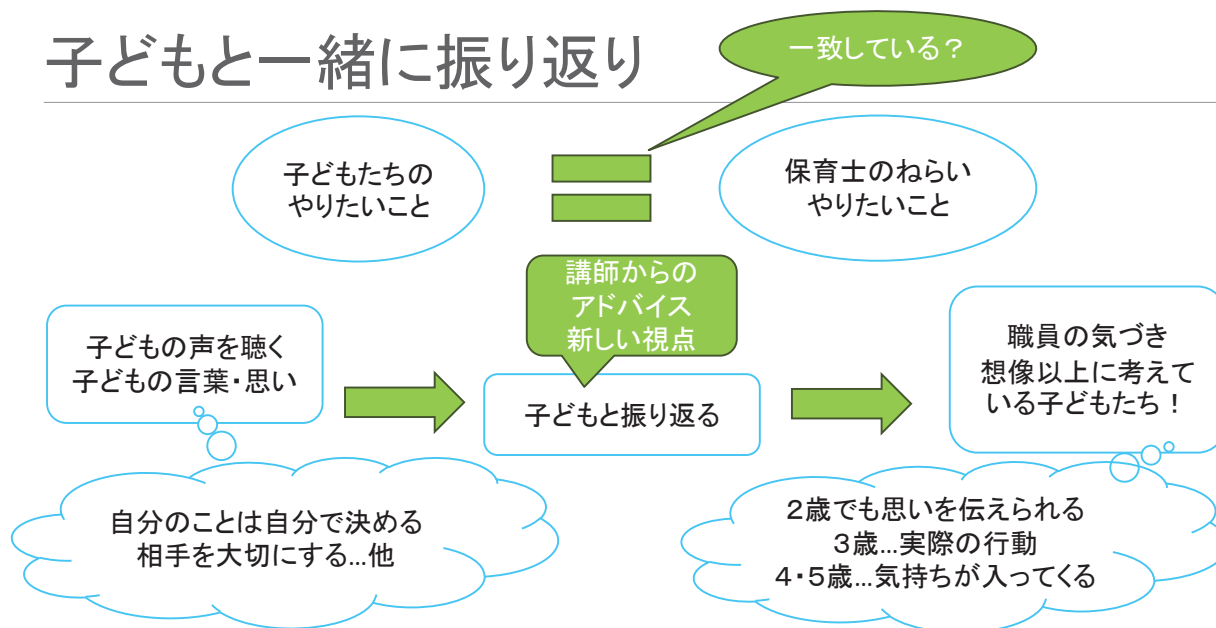
- ・環境の構成の見直し
- ・マネジメント研修
- ・リスクマネジメント
- ・モデル研究
- ・アセスメントシートの活用
- ・子どもの人権について
- ・児童福祉研修

子ども主体となる保育について、何を大切に、どこを改善したら良いか  
職員間で意見を出し合い、気になりつつ着手していなかった保育環境を整えたいと考えた

# 取組みのプロセス



## 子どもと一緒に振り返り



# 環境の見直し 語る日

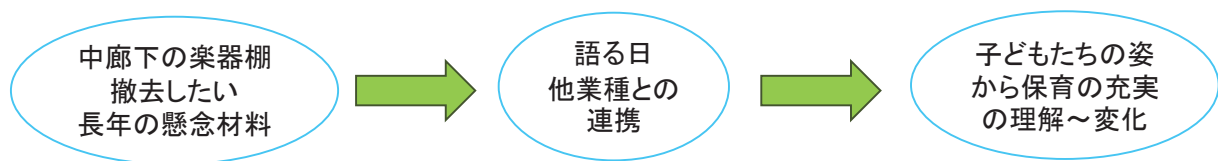
## 子どもが安心できる、ホッとできる場の構築

(特色) 中廊下がある保育園 子どもだけの空間 のびのび過ごすくつろぎ空間

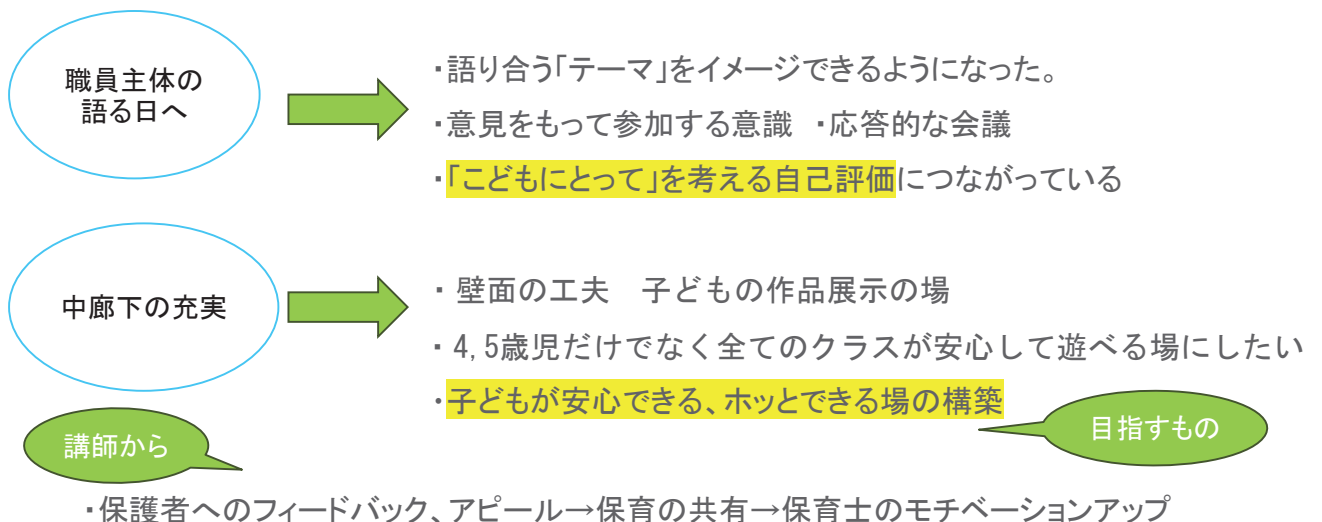


## 語る日

意見・考えを出しやすい場 職員同士が意見を反映し主体的に動かたくなるにはどうしたらよいか？



# 振り返りと今後の取組み目標



## 実践充実コーディネーター派遣事業報告



## 社会福祉法人嬉泉 鎌田のびやか園

### 次世代につなぐ保育

コーディネーター：東京成徳大学

坪井 瞳氏

バディ

：十文字学園女子大学 近藤 有紀子氏

### 年度当初の状況と課題

今年度からリーダーの世代交代を行い、主に5年目となる若手職員がリーダーを担っている。「子どもたちのやりたいことや思いから出発する保育」という保育展開がベースとなりつつある中で、**子どもたちの気持ちに寄り添うことばかりが前面に押し出され、子どもたちにとってより良い学びに繋がる保育・法人理念を理解した保育がなされていないのではないかという課題**が見えてきた。

表面的な理解に留まらず、目指している保育の本質を大切に引き継いでいくために必要な営みとはどのようなものか考えていきたい。

### 取組みの内容

#### コーディネーターとの振り返り

子どもたちとのやり取りの中で、面白い事例はたくさんある！子どもの思いを受け止め・待ち・子どもの気持ちを支えていけるところが、のびやか園職員の良さ👍

一方で、それぞれ好きな遊びをしている子どもたちだが、遊びの深まりが感じられない場面があった。子どもたちは生活と遊びの中から様々なことを学んでいく。遊びの発展のための具体例やヒントを知ろう！深めよう！

**放っておいても遊びは発展しない！**

**キーワードは「かかわる！」「つながる！」**

💡主任の役割：主任が意識的に保育に入り込み、遊びや生活の具体例を示す・引き出しを増やす役割を担う。具体的な事例を通して、子どもたちへの見取り・保育者の考えを共有し、今まで感覚で行ってきたことをあらためて言語化する。

💡客観的に保育を見てもらう機会の活用：保育の振り返りを受けて、子どもたちと関わる中で、新たな気づきや今まで持ち得ていなかった視点を獲得していく。保育者自身が自分を知り、相手に自分を伝えながら、遊びの発展や深まりのための援助の視点を補い合っていけるチームとしての保育を目指す。

💡若手の会・ベテランの会：経験年数や役割別に集まり、自己理解・自己開示の機会を通して、肩の力を抜いた時間がもてた。その時間は、周囲の同僚に目が向く時間ともなった。チームとして保育ができることで、子どもの育ちについて、前向きな議論が活発化し、明日の保育へとつなげる好循環を作る。

### 振り返りと今後に向けて

保育者が子どもを見取る姿勢としてのベースが出来つつある上で、のびやか園が目指している保育を次世代につないでいくために、①主任も意識的に保育場面へ関わること、②一人ひとりの保育者が任せられているという信頼感を得られること、③振り返りを継続して行っていくことを大切にしたい。そして、チームとして日々の実践を共有し、その実践が子どもたちにとってどのような影響を与えていくのかを共に考え、保育者が自信と実感をもって意欲的に保育に向かい合っていけるよう支援していきたい。

## 世田谷区立上馬保育園

### 子どもの主体性を引き出す保育と仕掛けづくり

コーディネーター：大妻女子大学 石井 章仁氏  
バディ：浦和大学 大村 あかね氏

#### 年度当初の状況と課題

園庭遊びの充実を考えていたところ、そこに限定せず、子どもたちが自分たちでやりたい遊び【主体性】をできる環境を整えることに着目することにした。  
子どもたちの主体性が続くように、保育士側の仕掛けを考えていく。

#### 取組みの内容

【主体性】をテーマに、職員それぞれが【主体性】と感じた子どもの姿を事例用紙に記入し、職員間で共有。その様子を保護者へ配信し、アンケートをお願いする。（アンケートに、他クラスの事例も見たいという意見があり、下記流れを3度繰り返す。）



各クラス事例

職員共有

保護者へ配信

保護者から感想

- <1回目> 職員個々が、主体性と感じた子どもの姿を記録する。
- <2回目> 職員個々が、前回の姿を継続、もしくは、他の気になる事例を追う。
- <3回目> クラスで取り上げる事例を決め、資料を作成。

#### 職員の声・変化

- ・子どもの良いところに目を向けるようになった。
- ・すぐに制止せず、何故その行動をとっているかよく観察するようになった。
- ・保育が楽しくなった。
- ・実際出来ているか分からないが、主体性や子どもの意見表明について意識して保育するようになった。

#### コーディネーターからの助言

- ・子どもの姿に合わせ、柔軟な計画の見直しをする。
- ・クラスを超えた大人の連携。
- ・うまくいかなかったことも記録に残すと良い。
- ・教材を自由に選べるようにすることも、主体性に繋がる。
- ・一緒に遊んだり、見守ったり、保育士が環境の一部だという意識を持つ。
- ・大きい子が小さい子のモデル。年長児は大人がモデルになる。

#### 振り返りと今後に向けて

- ・子どもの主体性について今まで意識はしていたが、より具体的な視点を通した関わりの姿勢に変わった。
- ・保護者に対し、研修などで学んで保育に活かしていることをあまり発信してこなかった。発信することで保護者の理解や園の自己評価にも繋がるのが分かった。今後も保護者との共有をはかり、園の自己評価を続け、安心、信頼を持っていただけるようにしたい。
- ・長時間保育で生活の切り替え場面での声かけなど、主体性を大事にした保育士間の連携をとっていくことが課題である。

## 世田谷区立上北沢保育園

### 園内研修を通じて保育を言語化しよう

コーディネーター：東京家政大学

堀 科氏

バディ

：洗足こども短期大学 尾根 秀樹氏

#### 年度当初の状況と課題

運動遊びと積み木遊びで園内研修をすすめることにする。昨年度は保育実践を壁新聞にまとめて保護者に発信してきたが、具体的な保育実践などさらに学びを深めたい。職員の年齢層が幅広い為、各々が自分の立場で力を発揮できる職員集団を目指し、自分の保育を言語化したり発信方法の手法を学んだりして、保育の質の向上につなげていきたい。

#### 取組みの内容

- ・園内研修は「みにぎっぽ（運動遊び）」「積み木クラブ（積み木遊び）」を継続する。自分がやりたい活動に入り、進めていくことにした。2グループに各クラスから入り、年齢層もバラバラのグループで活動を開始した。リスクマネジメントも、取組みに加える。

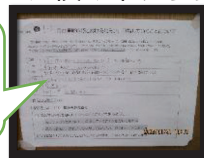
##### <コーディネーター派遣事業を受けて>

- ・園としての“大きなテーマ”を作った方がよい。自分たちの保育を分かりやすくどのように伝えていくか。保育士のねらい、思い、子どもの育ちをどのように捉えるか。ドキュメンテーション作成のポイントになる部分のきっかけをいただいた。

##### <取り組んだ内容>

- ①ディスカッション  
グループで年数回集まり、計画や方向性を話し合い、各クラスの思いを統一して遊びをすすめられるようにした。
- ②ドキュメンテーションの作成→保護者との共有  
各月ごとに作成。今年度から全クラス分を一度に見られるように、掲示の仕方を変更した。バックナンバーはファイリングし、いつでも見られるようにした。
- ③振り返り  
グループでの話し合いの他に、コーディネーター派遣事業がよい振り返りの機会になった。さらに学びを深めたいという思いから、積み木クラブで講師を招いて職員研修を実施した。

園全体で運動遊びのねらいを共有できるように表を貼り出す



ドキュメンテーション



#### 振り返りと今後に向けて

積み木遊び・運動遊びという保育内容について、幅広い年齢層のグループの中で、それぞれ若い人がリーダーになり進めていくことで、協力し各々が自分の立場で主体的に活動に取り組むことができた。どのように言語化し発信すると分かりやすく伝える事ができるか、考えながらドキュメンテーションを作成したことで自分たちの保育のよい振り返りになった。ドキュメンテーションは園全体での保育の共有にもつながった。保護者に向けての発信は取り組んできた内容のものだが、反応は時折、各クラスであるくらいだった。保護者に対して分かりやすいものであったかどうか、今後検討していきたい。

ドキュメンテーションは自園の取り組み・保育の振り返りとして、次年度もぜひ継続していきたい。

## 世田谷区立小梅保育園

### 遊びを通して子どもの育ちを共有する

#### ～保育の意図の言語化・可視化～

コーディネーター：大妻女子大学  
バディ：洗足こども短期大学

坂田 哲人氏  
伊藤 路香氏

## 年度当初の状況と課題

中堅からベテラン層が多い職員集団で連携もよく子どもの理解は共有できている。しかし、子どもの育ちをどう考えるか職員同士、また若手と語る・共有する場の必要性を感じ、遊びや環境を通して子どもと遊びこむ、子どもと楽しむ保育につながるよう思いを言語化、可視化して共有することを課題に取り組むこととした。

## 取組みの内容

### ●第1回目訪問

やってみたいことを出し合う中で、「うまくいかない」「先輩はどうやっているの？」等の意見があがる。遊びや活動の中で、子どもの姿(育ち)を大人がどう考えるか(保育士の意図や見通し)を共有することが必要と考え、思いの可視化・言語化をテーマに写真、付箋などを活用し、話す、語る場を作っていくことにした。

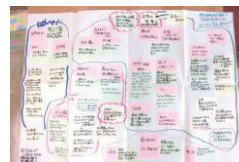
最初は、発表し合うことに留まり思いを共有するところまで深まらなかった。

### ●第2回目訪問(振り返り)

写真を用いて発表した後の自身の振り返りとして、実践したこと、考えが変わったこと等を年代別のグループに分かれ付箋を用いて話し合う。意見は出たが精神論的な話となり、方向性がぶれてしまう。コーディネーターの先生にアドバイスをいただき職員が意識していたり課題と考えたりしている『ワード(付箋に上がっている言葉)』を拾って深めていくことにした。



「好きな遊び＝ワクワクする遊び＝子どもとやりたいこと」と題して話し合う。テーマをしぼったことで語りやすく職員が大事にしている思いを可視化して共有する機会にもなった。また、毎月の保育の振り返りに写真を用いて話すことも並行して取り組み、可視化しながら伝える経験が積み重なってきた。



### ●最終訪問

保育の中で大事にしている思いをドキュメンテーションで発表。タイトルや話す姿に職員の思いが詰まっており、皆で共有するよい機会につながった。

## 振り返りと今後に向けて

保育の中で自分の考えや思いをどう伝えるか、経験の異なる先輩と若手の考えをどうつないでいくかを共有する方法として、可視化することによっていろいろな学びがあった。付箋に書くことで言語化を意識したり、文字に残すことで自分の思いや相手の考えを振り返ることができ、効果的であった。

保育の中の小さな「これって？」等も含め、子どもの育ちを共有するために、自分の思いや意図を言語化・可視化することを意識し、しかけ(ドキュメンテーション、写真、語る場他)を工夫しながら継続して取り組んでいきたい。





## 世田谷区立烏山北保育園

### 子どもが主体的に遊びを発展できる環境づくり

コーディネーター：東京家政大学 堀 科氏  
バディ：洗足こども短期大学 尾根 秀樹氏

#### 年度当初の状況と課題

園庭が広く自然豊かであり、戸外遊びも充実している。

保育室やテラスもゆるやかで、のびのびと遊ぶ空間もあるが、子どもの主体性を尊重するための環境づくりや実践が、充分ではない所もある。

#### 取組みの内容

子どもがより主体的に遊び、発展できる環境づくりを目指す（室内・園庭）。話し合いがしやすいよう年代別4チーム（若手A、中堅B、ベテランC、ベテランD）に分かれて活動した。それぞれのチームごとに提案事項を発信し、進めていくことを共有する。

【園庭遊具倉庫整理】 子どもから「〇〇していい？」という声や、遊具倉庫等の煩雑さから保育士自身が外遊具の取りにくさもあり、子どもを待たせる場面もあった。園庭遊具・倉庫整理をし、子ども達が自ら取り出せる環境を増やしたところ「していい？」という声が減少してきた。若手職員が園庭の約束事について同僚に対して「これはしていいですか」と尋ねる場面があり「聞くのではなく実現するためにどうしたらいいか」と言えるような環境の必要性を感じ、ベテラン職員だけでの話し合いを提案し改善に努めた。日々悩むところもあり正解がないが、“子どもにとってどうなのか”をチームや年代だけで留まらず、次回どうしていくかプロセスを確認し、話し合いの機会を設け、すり合わせをしてきた。

【1・2歳児室内遊具把握】 乳児クラスの遊具を見直し、乳児室内遊具整理表を作成した。また、遊具の入れ替えだけでなく乳児クラスの縦割りで遊ぶ日を職員より提案発信、子ども達を見守る姿の変化に気づく言葉が聞こえ始める。

【見る目の変化・自ら体験する姿を共感】 若手職員が保育の振り返りでドキュメンテーションを使用したり『遊ぼう考えよう僕の私の保育園』というマップを作成し、『子どもの声を聴く・変えたことで大人が気づいたこと』などの視点からも話し合っている。子ども自身が遊具でどう遊ぶのか、どこで探しどの場面で工夫し苦戦しているかなど見守っている。また子ども自身が構成し体験していく中で自ら危なくない方法に気づき他児に伝える姿など、子どもの変化に気づいたり発見した事を職員同士で共感。危険だから見守るのではなく、主体的な遊びを展開するために子どもたちの声を聴き耳を澄ませてきた事で姿がみえ、力を信じる姿や、それぞれの視点を共有する事で、遊びに向かう気持ちや経緯をより丁寧に細分化していくなど子どもを見る目に変化してきている。



#### 振り返りと今後に向けて

コーディネーターからのアドバイスで取り組みを肯定的に捉える事ができたり、子ども達が主体的に遊べるため職員同士の対話や、子どもの声を聴くことを意識し話し合いをしてきた。今後は園庭遊びなどルールのアップデートや乳児の縦割り保育をしたり、乳児室内遊具整理表を引き継ぎ活用したりしていく。園庭マップを活用し、子どもたちや職員と遊び方をどうしていくか共有し話す機会を作り、子どもも職員も主体的に自らやってみたいことを選べるような保育を進めていきたい。



## 世田谷区立三軒茶屋保育園

### 子ども理解と保育士の専門性を高めるために～中堅職員の取り組み～

コーディネーター：和洋女子大学 佐藤 有香氏  
バディ：洗足こども短期大学 飯村 愛氏

#### 年度当初の状況と課題

クラス運営の中でリーダーをとる立場になった自分達が園の中で力を出していきたいと思うが、その方法に悩みや不安を感じていた。まずは、自分達で同じ文献を読み勉強会を実施。その内容をどのように深める、生かすかが課題であった。

#### 取組みの内容

##### 第一回目訪問

会議で思いきり自分達の「思い」を語る。

「こうしたい」「こうなりたい」という理想

保育に対する考えや悩み

##### 第二回目訪問

中堅職員が保育の悩み、子どもをより理解するためには？等自分の思いをボードに貼り出し職員全員に共有。アドバイスよりも共感する意見をもらい「これで良いんだ、皆同じ思いをもっているんだ」と感じ安心と共に保育に前向きになれた。

##### 第三回目訪問

園内観察保育（４年目までの職員中心）見られる中堅職員も学びを深めていくのはどうか提案をうけ実践。双方で学びを語りあう。

共有されていると保育の質の担保につながる

- ・会計年度職員と担任の連携が保育を充実させていることが分かった
- ・子どもを理解し寄り添う言葉かけや関わり方をみた
- ・観察に入った職員も自分の意図を言語化すること、無意識の部分やねらいを皆で共有していくことの大切さを感じた
- ・他クラスに入り自分だったらどうするか考えた

共有することで色々な視点をもらえた



コーディネーターに褒められ認めてもらうことで大きな自信と喜びにつながる。

保護者に自分達の専門性を高めるための学びを伝えたい。子育てのヒントになるのでは



#### 振り返りと今後に向けて

ベテラン職員のやり方を学び、新人から即戦力とし保育してきた中堅職員。今回子ども理解と保育士の専門性を高めるために学びを深めていた中、コーディネーターの先生に入ってもらうことでより語ることから得るものの大きさ、楽しさを感じた。研修はインプットする部分が多く、語ることによってアウトプットし、自分を知り、他の職員を理解する機会になった。三軒茶屋保育園の強みは意見を受け止めてもらえる、ありのままの自分を出せるという風土である。今回の他クラス観察の実践を積み重ね様々な視点で子どもを理解し、気づきを言語化し共有することで専門性を高めていきたい。園全体で我が子を見てもらっている安心感を保護者を感じてもらえるよう保育士が自分の中に秘めている思いや考えを「語る」ことで主体性を発揮していきたいと考える。

## 社会福祉法人呉竹会 三茶こだま保育園

### 子どもの“ありのままの姿”から環境を考える

コーディネーター：和泉短期大学 松山 洋平氏  
バディ：和泉短期大学 星 早織氏

#### 年度当初の状況と課題

子どもの遊びを見ておらず、注意をするときにだけ関わっているような場面があった。子どもが遊びの中で何に楽しさを感じているのか、心の動きを捉えようとする姿がなかった。そのため、保育室の環境がほとんど変化していかないということが課題としてあげられた。

#### 取組みの内容

##### ①カンファレンス

“できる・できない”の視点から離れ「子どもの“ありのままの姿”を内面から捉えよう！」という内容で、一人一枚ずつ写真を用意し、子どもの心の動きをどのように捉えたかについて話し合った。

##### ②環境構成

子どもの姿に応じて、より遊びが広がるような環境を考えた。

①



②



2歳児ではお店屋さんごっこをして遊ぶ姿があり、友だちとのやり取りを楽しんでいるのではないかと捉えた。そこで、子ども同士が対面で話せるような空間として、棚の上に手作りのカウンターを作った。環境を変えた後、実際にその場を使ってお店屋さんごっこをしたり、通りがかりの別のクラスの子がお客さんとしてやってきたりと発展していった。

#### 振り返りと今後に向けて

写真を用いたカンファレンスを行うことで、職員一人ひとりが、子どもの遊びや心の動きをどのように捉えているのか、知ることができた。また子どもの遊びから環境を考えると、どのようにして行っていくものなのかを理解することができた。

今回学んだことを大切にしながら、今後も引き続き、子どもの今ある“ありのままの姿”を大切にしながら、子どもの遊びを捉えるという取り組みを行っていきたいと思う。また、そうした子どもの姿から、子どもの遊びがより広がるような環境構成を考えていきたいと思う。

## 宗教法人常徳院 常徳幼稚園

### 園で取り組んでいる活動に対して更なる充実に向けた支援

コーディネーター：玉川大学

岩田 恵子氏

パディ：亀ヶ谷学園

宮前幼稚園 宮前おひさまこども園 亀ヶ谷 元議氏

## 年度当初の状況と課題

子どもたちの主体性を育むとはどういうことなのか？園行事や日常の保育を見直し、保育者の保育に対する意識をどのように変えていくべきか？そのために園児も保育者も保育や活動を楽しむことを第一に考え、今後の保育について考察する。

## 取り組みの内容

「園児と一緒に活動を楽しむ」を目標に、今年度、今までにない園の取り組みとして、年間で月一回行っている「やってみよう！（縦割り保育活動）」を通して、主体的な保育を考察していきました。

当園は11月に作品展を行っており、毎年テーマを決め、それに向けたものを作っていました。今年度は、「やってみよう！」で行った新聞紙あそびから、新聞紙ねんどを作ることになり、それを作品作りに活用できないか考えました。新聞紙ねんどを作ってみると、初めての感触に「きもちわるい、おもしろい、ねんどになってきた」など色々な声が聞こえてきました。そして、“もっとやりたい”という子どもの気持ちが湧き出てくるのを実感しました。このような過程を作品展当日にご家庭にも伝わるように工夫しました。



新聞紙あそび



新聞紙ねんど作り



5歳児作品



4歳児作品

## 振り返りと今後に向けて

子どもたちの主体性を育むために自らやりたいと思う活動を選び、自ら楽しむことが出来るような保育計画を立てることは、新しい発想が生まれたり、日常の保育に対する意識も変えることに繋がりました。

これをきっかけにして、今後の保育が子どもの意欲が膨らむような保育になり、保育者もそのことに喜びを感じられるものにしていきたいと思います。

他の回の「やってみよう！」の様子





## 社会福祉法人尚徳福祉会 幼保連携型認定こども園世田谷ベアーズ やりたいことを見極める

コーディネーター：大妻女子大学 石井 章仁氏  
バディ：浦和大学 大村 あかね氏

### 年度当初の状況と課題

園庭や保育室の熱中できる遊び環境の取り組みが、園の中で一丸となって進めることができなかった（クラス単位だった）。子どもたちのやりたい、好きを実現するために環境リーダーをつくり、目標を決めてそこまでに達成できるようなしかけを考え、子どもたちと相談しながら一緒に作っていくことが重要と考えている。乳幼児が満足して遊べる空間づくりが課題である。

### 取り組みの内容

虫が集まる園庭にしたいをモットーに遊び会議が始まった。自然物が手に入り虫のホテル（インセクトホテル）を作ろうと提案したことをきっかけに、子どもたちも興味津々で自発的に散歩先で拾った木々を持ち帰り家づくりが始まった。虫への愛情あふれる会話も聞かれた。（公園に見立てて虫が集まる情景を想像している会話）

また、バスマットを増やすと、登り棒を使ったお家づくり、園庭を掘ってみると次第に山、穴を作りはじめ、そこには異年齢の関わりが生まれた。今後は高低差をつけた道を作り、三輪車ロードを子どもたちと作っていく予定である。

園庭のタイヤは、遊ぶには数が少ないため、調達中である。コーディネーターから数を増やすご提案をいただき、増やすことで今まで以上の想像力と協働性が生まれることを期待している。

縄跳びの置き場所を変えると、興味をもった乳児も模倣して満足顔で遊ぶ姿があった（今までは下駄箱→園庭）



### 振り返りと今後に向けて

今までなかなか形にならなかったことが、今回の事業に参加させていただいたことで、一步を踏み出すことができた。ログハウス、登り棒など動かせないものが多いので、今あるものをどのように生かしていけるかが課題である。

今後は、パカポコからやっここ・一本下駄・竹馬のようにステップアップし、繋がりのある遊びを提案していきたい。一つの取り組みが始まると、それぞれアイデアを出しあい、保育教諭の団結する力がついていくことを確信している。

コーディネーターのアドバイスで沢山の気づきが生まれたので、事業計画に盛り込んで進んでいきたい。

## 世田谷区立中町保育園

### 子ども中心に職員も楽しもう！～ミドル層を中心に～

コーディネーター：昭和女子大学 遠藤 純子氏  
バディ：昭和女子大学 鈴木 祥子氏

#### 年度当初の状況と課題

コロナ禍が明けて、4.5歳児は異年齢交流を再開し、その中で職員のやってみたいことを実現していく場面があった。この取り組みをミドル職員がリードしながら進め、若手職員も多数在職しているので、若手職員のやりたいことも実現できる機会となると、より活発な保育園になるのではないかな。

#### 取り組みの内容

**食育①** 職員間で「食育とは？」と食育の定義について意見交換をする。その後、保育園に設置されている「まちっこ図書館」に食事にまつわる絵本を並べ、自然に親子で手にとってもらえるようにした。また野菜を常時展示し、見て触れてもらうことで、保護者の方と子どもたちに「食べること」「食材（野菜）」に親しみと興味を広げるきっかけづくりをした。



**食育②** 毎日食べている給食がどのようにどのような人が手をかけて提供しているのかを知ることによって興味をもって給食が食べられるように、1. 調理職員の自己紹介動画を見る。2. 調理器具の紹介を行う（見て触れる）3. 調理の過程紹介動画を見る（カレーライスができるまで）を行った。



#### 運動

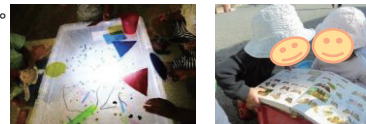
「幼児期運動指針ガイドライン」（文部科学省）を参考に『36の動き』の表を各クラスに貼り、可視化する。どの程度実践しているかを照らし合わせながら保育ができた。また保護者に向けてクラスで行っている36の動きや、縦割り活動でのサーキット遊びやリズム遊びの様子のお便りを配信にてお知らせした。



#### 環境「光遊び」「虫のおうち」の実践

光遊び/自然光やライトを活用して子どもたちがその不思議さや楽しさを自ら発見できるような関わりを大切にしながら行ってきた。“光ボックス”を用意していくことでさらに遊びが広がり、セロファンや砂にライトを照らし素材が光にどう変化していくかを楽しんだ。

虫のおうち/以前からある園庭の一角にある「虫のおうち」のスペースを更に虫との関りが充実するよう環境づくりをした。草花を植え、手作り虫眼鏡や図鑑を用意し興味を引き出すことで、虫探しや、虫の名前を知りたいという気持ちにつながっていった。



#### 振り返りと今後に向けて

職員の得意ややってみたいことを保育に取り入れていく中で、主体的に動き、楽しみながらミドル層が中心に盛り上げていた。コーディネーターのアドバイスの元、事務所に職員が一目で共有できるスペースを作り、そこに保護者に配信した各グループの進捗を貼り出した。育児短時間勤務の職員も数名いる中でいかに無理なく全職員で共有できるかが鍵であったが、固定したスペースであることや写真を交えたお便りの内容を貼り出すことで目に留まり一目で確認できた。そして、それぞれのグループに付箋でコメントを出し合うことで張り合いや刺激が生まれ職員の楽しい気持ちが更に膨らんだ。この気持ちが子どもたちにも伝わり、活気ある活動へと発展することで、子ども達の興味関心も広がり、保育の質の向上へと繋がった。保育の質の向上には個人だけでは実現できず、協力して行うものであることを学んだ。その後のアドバイスで保護者アンケートも行い、好評とヒントを得た。職員のやる気や向上に結び付き、いただいたヒントは今後この活動に取り込み、更に展開していきたい。



## 世田谷区立松丘幼稚園

### にこにこ わくわく げんきなこ ～少人数のよさを活かして～

コーディネーター：東京成徳大学  
バディ

坪井 瞳氏  
近藤 有紀子氏

## 年度当初の状況と課題

### ①週打ち合わせの在り方

保育の振り返りが担任のみの捉えや反省になりがちで、**幼児の姿を多面的にみることができていなかったり**、次の手立てまで考えられていなかったりすることがあった。また、行事が立て込んでい

### ②少人数での保育の悩み

幼児数が少ないことにより教師との信頼関係を築きやすい一方で、多様な考え方に会える機会や、幼児同士で刺激し合うことが少ないため、遊びの広がりや継続が難しい。

## 取組みの内容

幼児理解の幅を広げたり、環境や援助のアイデアを出し合ってよりよい援助につなげたりすることができるよう、週の打ち合わせにおいて、写真やメモを持ち寄り、担任の話題にしたいことに焦点を当てて対話していくようにしていった。

＜コーディネーターより＞

- \* 今後の展開への教師の思いの発信がより具体的な手立てにつながる。まずは、一人ひとりの教師の願いを言語化してみよう。
- \* 幼児のつぶやきに耳を傾け、幼児の楽しんでいる姿が一層充実するよう、教師自身もその楽しさを味わい、柔軟な視点をもって話し合う。「例えば園外に出てみるとか…」「実物を見に行ったらどうか」
- \* その視点が遊びの継続や広がりのためには欠かせない。教師が楽しさを共有し、柔軟な視点をもつことで、ヒントや誘い掛け、環境設定が教師自身の中に生まれてくる。

＜アドバイスを受けて＞

幼児と一緒に作ったエレベーターのボタンで、エレベーターごっこをした事例では…

実際に、エレベーターに乗ってみたい？

予定にはなかったけれど乗ってみよう！

イメージがもっと膨らむかも！

- ・遠足で行った水族館で実際にエレベーターに乗ってみる。

- ・「見て」「触って」体験したことで、幼児たちの「ドアを付けたい」というよりリアルな再現につながるアイデアが生まれた。教師と一緒に試行錯誤しながら、エレベーターのドアを作ることになった。

◎ 幼児が楽しんでいる遊びが、より面白くなるための援助について具体的に出し合い、教師が意識的に関わることで遊びが継続し、広がっていくことにつながった。



## 振り返りと今後に向けて

3回のカンファレンスでの話し合いを通して、自園の3つの良さが見出された。

- ★「声を上げられる、声を拾ってもらえるよさがある」：幼児も教師も少人数であるため、幼児のつぶやきを拾いやすく、幼児の様々な発想を教師間で共有しやすい。
- ★「遊びと生活と文化がつながる場」：今まで培ってきた経験や研究、また引き継がれている教材などが積み重なって、幼児が豊かに生きる経験ができる場となっている。
- ★「繰り返し粘り強く試せることで自分とみんなと向かい合える場」：意図して計画的に場を作り、試行錯誤して遊べる教材をそろえている。

園の特性も多面的に捉え、よさとして活かしていきながら、今後も、語り合いの中で教師の願いや思いを言葉にして発信、共有し、遊びの充実や友達関係の広がりにつなげていきたい。

## 社会福祉法人京都ルーテル会 マリア保育園

### 職員一人一人が子どもをみる力をつけていく

### “主体性を育てるとは”の共通理解を考える

コーディネーター：聖徳大学 深津 さよこ氏  
バディ：東京都市大学 室井 眞紀子氏

## 年度当初の状況と課題

昨年度入職した職員が多いため職員間で子どもの育ちや関わり方、環境等について話し合いの時間が十分確保できていない。そのため細かなことの共通認識や共有ができていないこともある。

## 取組みの内容

第1回目に“子ども一人一人を大切にする保育”という園の理念はみんな理解しているが、具体的にどうしたらいいのか分からないという意見が出ていた。情報共有の仕方を改善した方がいいという課題がでてきたため、職員会議にて話し合いを行う。まずは全体のことよりも細かいことからの方がいいということで、各クラスの課題について話し合うことにした。各クラスの悩みや困っていることなどの課題を持ってきてもらい、グループに分かれて話し合う。グループに分かれて話し合いをすることで新しい課題も見えてきた。クラスのやってほしいことリストの貼り出しや押し入れのおもちゃを見える化することができた。

第2回目に取り組みをやってよかったという意見がほとんどだった。隣のクラスが何をしているか見えにくいという意見があったので次回までに担任交換を試みることにする。

第3回目に担任交換はいいところもあったが、年明けに行ったため乳児は大変だったという意見が多かった。この活動が何のためにやっているのか分からないという意見もあったようで、何のためにやっているのか分からないと意味がなくなってしまうという助言をもらった。



## 振り返りと今後に向けて

会議での話し合いができたことはとてもよかったのでこれからも継続的に取り組んでいきたい。担任交換は取り組み前の説明がうまく伝わっておらず、職員や子どもたちに負担がかかってしまった。取り組んでみて“他のクラスの様子が分かってよかった”や“年齢ごとの成長が見られてよかった”といういい意見もあったので、今後はねらいや意図が伝わるように説明し、職員の希望ももっと聞いてから実施したい。コーディネーターの先生方に入って頂き、思いが伝わっていないこともあるんだということに気付き、話し合うことの大切さを痛感した。いい取り組みでもやらされていると感じると成長につながらないので分かりやすくみんなが納得できるような説明をしていきたい。また話し合いを重ね、子どもの育ちを喜び合えるチームワークを育んでいきたい。



## ミアヘルサ株式会社 ミアヘルサ保育園ひびき上馬 私たちの保育をもっと楽しく♪

コーディネーター：昭和女子大学 遠藤 純子氏  
パディ：昭和女子大学 鈴木 祥子氏

### 年度当初の状況と課題

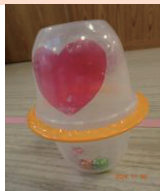
乳児だけの小規模園ということもあり、子ども、保護者、職員との距離が近く、アットホームな雰囲気です。丁寧な保育を行えるという強みがあるが、若い職員が多く、職員の気づく力、発言・提案する力、継続していく力が弱い部分である。職員が楽しいと感じる保育をグループ活動を通して行っていきたい。

### 取組みの内容

「保育実践コンパス」を基に「環境」をテーマにしてグループ活動を行う。

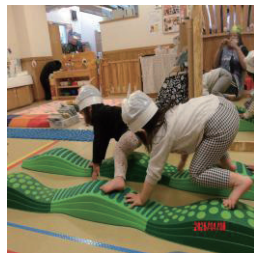
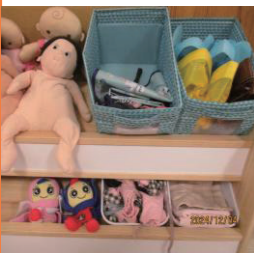
#### 0、1歳児グループ「非認知能力の育ち」

手作り玩具を使って音、感触、におい、光の動きなど全身で楽しむ様子が見られた。



#### 0、1歳児グループ「表現と環境」

保育室の環境を一新して、子ども達が存分に体を動かして表現し、主体的に過ごせる環境を模索していった。何度も試行錯誤しながら静と動の環境を整えていった。



#### 2歳児グループは「人間関係」

私たち担任が子ども達に育んでもらいたい力とは…自分の気持ちに気づくことで相手の気持ちに気づいて欲しい。そこで思いついたのが職員が寸劇を行い客観的に今の子ども達の姿を見せていくこと。そして「ポカポカの木」というクラスの優しい気持ちを象徴する木を作成し、シールを貼っていく活動に展開させていった。



### 振り返りと今後に向けて

今回の活動を通して沢山のものを得られたが、その中でも強く感じたことが、環境設定や手作り玩具、ポカポカの木の存在など、日々の業務に追われて後回しになってしまいがちなことこそ最優先すべきこととして実感したことであった。子どもの気づき、そこから得られる職員の気づきは保育の質に大きく関わっていくのだなと感じた。また今回の活動は0、1歳児をぐちゃぐちゃに混ぜながら、時々2歳児も混ぜりながら、職員も保育士と栄養士がぐちゃぐちゃになって、何度も失敗と成功を繰り返し話し合いながら取り組んでいった。回数を重ねるごとに職員の目がどんどん生き生きとしていく様子がとても印象的でこの取り組みの大きな成果を感じた。

今後はパート職員や保護者もそのぐちゃぐちゃの中に入って貰って、保育の楽しさの輪を広げながらより一層保育が盛り上がっていくといいなと思う。



## 世田谷区立南奥沢保育園

### 「こんなことしてみたい！」実践への取り組み

コーディネーター：和洋女子大学 佐藤 有香氏  
バディ：洗足こども短期大学 飯村 愛氏

#### 年度当初の状況と課題

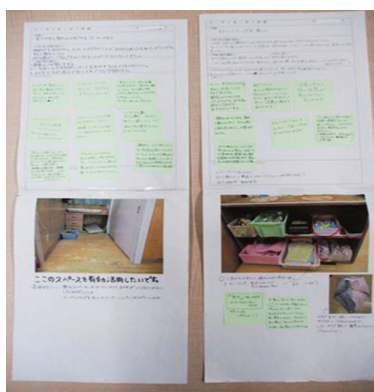
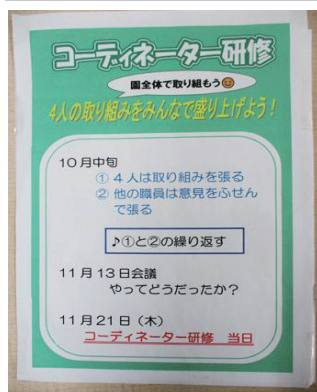
令和6年度メンバーが大きく変わり、フレッシュな顔ぶれとなる。  
経験年数も全体的に中堅（10年以下）の職員が多くなり、前向きに保育を楽しみ  
く取り組めるようにしたいと考える。限られた職員の人数の中で、全体会議に参加  
できる職員が少なく、全員で「保育を語る」ということが難しい状態である。  
ここにやってみたい保育の実現に向けてどうしていくか？が課題となる。

#### 取り組みの内容

リーダーの思い  
「楽しいと思うことが出来ているか？」  
「思いを言えているだろうか？」

若手の思い  
「それぞれやってみたい  
取り組みがある！」

- 各自やりたいことをリーダーに発信。
- 若手1人の取り組みではなく、園全体に周知。付箋に書いて貼りだす。
- 園全体でそれぞれの取り組みを知っていくことが大事。



#### 振り返りと今後に向けて

今回のコーディネーター派遣事業を受け、若手は日頃やってみたい！と思っていることをリーダーに言える機会となり、クラスで共有できたことや、全体から付箋でコメントをもらったことで共感してもらえる喜びが感じられ、今回の経験をぜひ今後も生かしてほしいと思う。リーダーも共有したことで、自身がバックアップする方法を考える機会となる。今回は若手の取り組みではあったが、リーダーにとってもクラスの相方を思い、クラス運営に力を注いでいることがよく分かった。

今回感じたことは、「保育は楽しく」が基本であり、年数に関わらずやってみたい！と思える園の雰囲気、取り組んでみて振り返りながら試行錯誤していくという環境が大切だということを再認識する。

これからも一人ひとりの取り組みを園全体で支えていける園作りを行っていききたい。



## 社会福祉法人愛隣会 めぐみ保育園

### 「保育って楽しい！」が実現する組織づくり

コーディネーター：大妻女子大学 坂田 哲人氏  
バディ：洗足こども短期大学 伊藤 路香氏

#### 年度当初の状況と課題

令和5年度に園長・主任の交代、6年度に乳児・幼児リーダーも交代しフリー保育士として保育に入ることとなった。乳児・幼児フロアそれぞれのコミュニケーション不足が大きな課題として挙がっていたので取り組みを実施し風通しのよい組織づくりを目指す事にした。すべてを改善へと向かわせるには約3年はかかることからまずは一つひとつ解決していくために、リーダー層の育成に着目した。

#### 取り組みの内容

**乳児リーダー**：乳児職員同士がそれぞれ良いところや、してもらって嬉しかった出来事、子どもの育ちや良い点などを一日最低一枚をふせんに記入してボードに貼っていき、職員同士で共有する取り組みを行う。

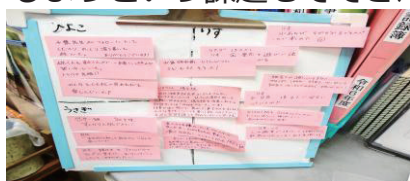
**幼児リーダー**：振り返りや語り合う時間を捻出できるよう、幼児職員の休憩やNCT※などの保育から抜けている時間を一覧にし可視化して全体で共有する。

上記の取り組みを4か月間ほど行ったところ、幼児職員の時間の使い方が可視化されることでいつどの職員が保育から抜けていて共に振り返る時間がとれるかなどが明確になり必然とコミュニケーションをとることが増え、また、職員自らが発信してくれることも増えた。



休憩、午睡監視、NCT、昼礼、寝かしつけなどそれぞれの職員が記入して可視化を行った。課題点としては、記入する事の負担感が出てしまうため継続して行うことが難しい・・・流れや傾向をつかめただけでも効果はあったと思う。

乳児フロアは軌道に乗ってくるとたくさんのふせんが出てくるようになり、ふせんの内容を職員同士が振り返る姿があり、子ども理解を深めると共にコミュニケーションも深めることができた。だが、職員数が多く年齢層の幅が広いこともあり、この取り組みが浸透するまでに時間を要すると共に、出す人が限られてきてしまうという課題もでてきた。



この課題を受けて、リーダーが主導し子ども理解を深めたり職員との連携をより密にするために、園内研修を通して保育ウェブの取り組みを行った。ふせん出しは全員での取り組みは難しいが子どもの言動や楽しい遊びの共有、困った行動に対する保育士の言葉かけや援助など、保育ウェブで共有することはとても有意義に行えた。

※ノンコンタクトタイム

#### 振り返りと今後に向けて

大きなテーマとしてのリーダーの育成は、今回の取り組みで自発的に何かをしてみたいという声が挙がるきっかけになった。「リーダーがやる事は園が望んでいること」ということを意識して自身の向上も並行しつつ今後もリーダーの育成に努めていき、最終的にはリーダーが現場職員をとりまとめるようになることを目標にしていく。また、保育士の資質向上も含め、今後も風通しの良い組織づくりを目指していきたい。

## 社会福祉法人聖愛学舎 もみの木保育園太子堂

### すぐできるから作りたくなるドキュメンテーション ～対話から次の展開がはじまる～

コーディネーター：洗足こども短期大学 井上 眞理子氏  
バディ：洗足こども短期大学 尾根 秀樹氏

#### 年度当初の状況と課題

法人独自の書式を利用してドキュメンテーションを作成し自己評価を行っているが、時間と手間がかかるため、取り組むまで腰が重く鮮度が低い。「保育を語り合う」という園の風土をベースに誰でも続けたいような自己評価について検討しつつ、それが園全体、法人全体の評価に繋がっていくような手法を考えていく。

#### 取組みの内容

☆保育者、子ども、保護者みんなで活動を振り返る保育の可視化「教育的ドキュメンテーション」と、保育者の自己評価のための「ドキュメンテーション」を繋げたい。



#### 1.会議での保育実践発表、語り合いの改革

成果：職員が語り合いの中で、子どもの姿に問いや仮説を立てるようになった。  
一人の子にスポットを当てて掘り下げて考えるようになった。

課題：勤務時間の関係で語り合いに参加できない職員へのアプローチ

#### 2.保育の可視化、簡単に楽しくできる教育的ドキュメンテーションの開発

成果：おたより帳アプリを使用する方法を提案したことで、ポイントをしばらく誰でも10分程度で作成できるようになった。→作成頻度が上がった。

おたより帳アプリを使うメリット・デメリットを考え、職員がそれぞれ可視化したいもの、ことに合わせて工夫するようになった。

課題：保育を可視化する頻度は上がったが、自己評価のためのドキュメンテーションには未だ繋がりがづらい。

#### 3.実践、改善、共有

成果：保育内容によって適切な教育的ドキュメンテーションの形式を選択し、自分たちで工夫しながら作成するようになった。与えられた方法に収まらず、「ここは良い、ここは使いづらい」「だからこうしたい」と発信できる雰囲気を変えて実感した。

課題：振り返りのためのドキュメンテーションの作成頻度が上がらない。経験が浅い職員も一緒に保育を振り返るような時間が必要。



#### 振り返りと今後に向けて

新しいことへの挑戦するにあたり、職員への負担に不安もあったが「まずやってみよう」という内容にするために細やかに動いたミドルリーダーの動きに職員がついてきてくれた。その結果、保育の可視化が活性化された。職員一人ひとりと対話する時間を最優先にするマネジメントは、今後にも生かされていくと感じる。また井上先生、尾根先生からは実践を支える職員の質や園の風土を言語化して認めて頂き、職員にとって大きな励みとなった。

新たな課題に向けては、既に職員から新しいアイデアが出ている。引き続き実践→評価→課題→修正→実践と歩みを止めず、成長し続けられる園でありたい。

## 世田谷区立用賀保育園

### 保育が楽しくなるための情報共有

～やってみたいが増えていく～

コーディネーター：洗足こども短期大学 井上 眞理子氏  
バディ：洗足こども短期大学 加藤 翼氏

## 年度当初の状況と課題

保育の振り返りは丁寧に行い保育のポイントなど掲示を行い共有を行っている。  
会計年度職員を含め職員数が多いことで情報の共有に時間がかかってしまうことが課題である。

## 取組みの内容

### 1回目

- \* 情報の精査
- \* 情報共有のツールの見直し
- \* 役割を分担する

→  
情報を共有  
するツール

- \* 休憩室にホワイトボード設置し、必要な情報を1か所で確認できるようにする。
- \* 会議内での記録はPCで入力したものをスクリーンに映し出し、その後記録で会議内容を確認する際も同じもので共有できるようにする。

## 職員間の情報共有をどのように行っていくか

### 2回目

- \* 相手を知ることで伝え方も変わる。  
伝えるべきポイントも変わってくる。
- ・ 趣味はなに？
- ・ 育ってきた環境は？
- ・ 年代によっても
- ・ バックグラウンドを知っていれば伝え方も工夫できる。



お互いを知るために  
やってみたこと

- \* 世代別での語らい  
(世代ごとで話すことでお互いを知り、助け合う姿がでてきた)
- \* 自己紹介カード作成  
(個性を知る機会になっている  
内容だけでなく写真の選び方や文字  
の色わけなども人となりを知れた)



## 振り返りと今後に向けて

今回の取り組みを行うことで職員間で互いを知り合う大きな機会になった。自己開示をそれぞれがしやすい環境になりつつあることや、認め合う機会になったことで、仕事の活性化にも繋がる等大きな成果となった。

自己開示をしやすい環境の中では、園内で今年度より始めた子ども向けイベントや保護者向けサロンなどで、それぞれが得意なことを生かし主体的な取り組みが行われている。

子どもだけでなく保護者からも好評であることで、職員のモチベーションも上がり企画を楽しみながら行っている。

“お互いを知る”ことが職員間での共有や連携の難しさを和らげる手段として大変重要だったことに気づく素晴らしい機会となった。

今の取り組みが今後広がっていく中で、職員の負担になる取り組みにならないように、常に職員の意欲や主体的な取り組みでいられるようにしていきたいと考える。



## 世田谷区立わかさ保育園

### 子どもたちが虫や草花に触れられる園庭作り

コーディネーター：玉川大学 田澤 里喜氏

バディ：玉川大学 上田 よう子氏

#### 年度当初の状況と課題

- ・虫や草花に興味や関心がある子どもたちの姿を通し、園庭で自由に使える草花を育てる環境作りのために園庭PT※を立ち上げ行っている。保育士は子どもたちにより良い保育環境を作りたいと考えているが園庭の環境構成上、どのようにしていくことが良いか悩んだままPTを活かしきれなかった。
- ・草花、虫以外にもビオトープなども取り入れたいと考えている。

※プロジェクトチーム

#### 取組みの内容

##### ○1回目 保育について語り合う～発信を否定せずに、自由に語り合おう～

・年齢、経験年数ごとにグループに分かれて自由に語れる場を持ったことで、職員一人ひとりの思いや感じていることがわかった。自己開示しながら、対話し、語り合いが出来、安心して職員間で伝えられる環境・関係性（心理的安全性）がある職場風土であることが、自園の強みであることに気が付いた。

⇒2回目訪問前に、園庭PTで職員アンケートを実施した（どのような園庭にしたいか等）アンケート結果から、実際に保育をしている職員の思いがわかった。

##### ○2回目 園庭環境について「これならすぐできる！TOP5」を語り合う

保育士の思い・願い：虫や草花のある園庭にしたい・使いやすい園庭・倉庫の中が使いにくい等の意見があった。⇒「フープの移動」「屋外倉庫整理」を職員で実施した。⇒子どもが遊具を取り出しやすい環境になったことで、職員の声掛けが減り、子どもたちの遊ぶ姿の変化もみられるようになった。また、職員の遊具の出し入れのしやすさにもつながり子どもから目を離すことなく出来るようになった等、様々な効果が得られた。

「大人が声を掛けなくても、子どもが主体的に行動できる環境」の実現

##### ○3回目 これから目指したい園庭を語り合う

職員の年代により、理想は様々。それぞれの意見や考えを認め、出来ることから始めていく。

⇒「違いを前提とする風土」が大切。

倉庫整理



保護者との共有として  
お便りを配信  
しました。

#### 振り返りと今後に向けて

「虫や草花のある園庭作り」という課題から職員間の話し合いを通し、全員が同じ気持ちで取り組めたことは大きな成果。風通しの良い職場であること、「心理的安全性」のある環境であることがわかさ保育園の強みということを知る良い機会となった。今回の取り組みを通して職員一人ひとりの思いや願い、考えていることを発信出来る関係が深まった。声をあげて実践した結果、変化を体感し成果を感じたことで保育士としての楽しさや「やりがい」へと繋がってきた。この「変容からくる手応え」を大切にしながら、職員一人ひとりが「当事者意識」を持ち、主体性を発揮しながら、わくわくした気持ちを持ち続けられる職場環境作りを継続していく。そして、子どもの姿を通して「知りたい」という気持ちを受け止めながら、さらに子どもの探求心を育み一緒に楽しめる保育士集団を目指していく。



# 令和6年度 乳幼児教育支援センター事業実績

## 1 乳幼児期の教育・保育の充実と発展

### (1) 教諭・保育士等の人材育成

◆研修実績 全32回 受講者数3,065名

| 施設                    | 人数   |
|-----------------------|------|
| 区立幼稚園                 | 52   |
| 私立幼稚園                 | 39   |
| 区立保育園                 | 1230 |
| 私立保育施設（こども園、地域型保育事業含） | 1570 |
| 認可外保育施設等              | 174  |
| 合計                    | 3065 |



乳幼児教育支援センターでは教育・保育実践コンパスに基づく研修や実践充実コーディネーター派遣事業を実施



教育・保育実践コンパス

◆実践充実コーディネーター派遣事業実績

| 施設                    | 園数 |
|-----------------------|----|
| 区立幼稚園                 | 1  |
| 私立幼稚園                 | 1  |
| 区立保育園                 | 9  |
| 私立保育施設（こども園、地域型保育事業含） | 7  |
| 合計                    | 18 |

◆モデル研究実績

※学び舎数

| 研究                     | 園数 |
|------------------------|----|
| 園・校における架け橋期の教育の充実      | 2※ |
| 園の教育・保育の評価（自己評価を中心として） | 3  |



パネルディスカッションの様子

2月開催のコンパスフォーラムでは、各園がモデル研究やコーディネーター派遣事業の成果を報告

### (2) 就学前の教育・保育と小学校以降の教育との円滑な接続

◆学び舎を中心とした幼保小中の連携推進

学び舎の幼保施設の参加状況（令和7年2月末時点）

| 施設                    | 園数  |
|-----------------------|-----|
| 区立幼稚園                 | 8   |
| 私立幼稚園                 | 7   |
| 区立保育園                 | 45  |
| 私立保育施設（こども園・地域型保育事業含） | 129 |
| 合計                    | 189 |

◆アプローチ・スタートカリキュラムの推進

乳幼児教育アドバイザー訪問実績

| 施設    | 園数 |
|-------|----|
| 区立幼稚園 | 1  |
| 区立保育園 | 3  |
| 合計    | 4  |

## ◆幼稚園・保育園の窓口園を対象とした学び舎アンケート

乳幼児教育支援センターは、幼保小中の交流や連携が一層促進し、乳幼児期の教育・保育と小学校以降の義務教育との接続が円滑なものとなり、世田谷区の子どもたちが豊かな環境で安心して育っていけるように支援しています。



アンケートから分かった「小学校入学前の訪問の機会や内容」「合同研修会や意見交換会・職員同士の交流」「保育や授業公開の実施」「幼稚園・保育園の園児や職員同士の交流」等における様々な工夫を紹介します。

### 訪問の機会

- ◆運動会や展覧会・学芸会の見学
- ◆1年生の授業参観や授業体験、校内見学や生活体験の機会、3学期の学校訪問
- ◆生活科の授業内容を活かした交流活動（「秋と遊ぼう」「お祭りごっこ」など）

### 意見交換

- ◆小学校・中学校の授業公開後の意見交換の実施
- ◆学び舎内の分科会に分かれての協議会
- ◆共同で「架け橋期のモデル研究」を実施
- ◆地域の幼児、児童に関わる機関が集まり、情報共有
- ◆交流活動の打合せや振り返りの実施
- ◆「非認知能力の育成」をテーマに、合同で大学の講師の講演を聞いて学ぶ

### 保育・授業公開

- ◆保育公開期間を設けて、見学会の実施（見学後にアンケートに記入してもらい、その内容も含めて協議会で互いの指導方法などを知る機会とする）
- ◆小学校・中学校の学校公開の参観や行事見学
- ◆公開期間以外でも、学校見学はいつでも受け入れてもらっている

### 園児・職員の交流

- ◆近隣保育園の園児同士の交流（園庭の活用など）、年長児同士・園行事等の交流、保育ネット※の活用
- ◆学び舎の分科会や公開時に職員の交流
- ◆幼稚園の協同的な活動を主とした交流、展覧会の見学
- ◆環境学習と一緒に体験
- ◆互いの園を訪問し合い、見学

※地域ごとの保育施設ネットワーク

ほかにもこんな声がありました！

**Q** 連携した取組みを行う上で互いの理解が進んだ・効果的であると感じた点について

**A** ○保育や授業を参観し意見を伝え合ったり、合同の研修を受けたりする機会は、互いの教育内容や援助について知る機会となる。  
○小学校のリードがあることで、学び舎の幼稚園・保育園対象の交流活動の継続につながっている。  
○小学校教諭が園の様子を見に来てくださり、子ども理解につながった。  
○学校訪問は、園児の期待と共に安心感につながる。他の園児とも顔見知りになれる。  
○子どもの育ちに切れ目がないことを実感しながら、学び舎での活動に参加できる。

**Q** 互いの理解が必要であると感じた点について

**A** ○どのような生活や取組みを行っているかをもっと知る機会が増えると、互いの理解につながる。他校種の理解までには、まだ至らない。  
○交流活動などの打ち合わせや振り返りを行うことで理解が進むのではないかと。  
○年度初めや年度末などに、学び舎内で活動の内容や予定の確認などを話し合う機会が欲しい。

**Q** 学び舎の活動の充実に向けて今後行っていきたいことについて

**A** ○小学校・中学校と交流を深め、園児・児童・職員が気軽に行き来できるような、互いに顔の見える関係性を築きたい。  
○幼稚園・保育園の活動を、小学校・中学校教諭に見に来てもらう機会。日程が合わない課題もあるが、合同の研修会も実施できるとよい。  
○幼稚園・保育園で大切にしてきたことが、小学校でどのように引き継がれていくのか職員同士が理解し合う機会。

## 2 乳幼児期の資質・能力を育む環境づくり

- ◆文化・芸術体験事業（昭和女子大学、東京都市大学と連携）  
区内の大学と連携し、楽器に触れたり、演奏を聴いたりするなどの音楽体験や、天然粘土でイメージを形にする体験を通じて、子どもの発想力を高めるなど非認知能力の育成を支援。
- ◆配慮を要する幼児への支援（国士舘大学と連携）  
配慮を要する幼児が、現在の保育環境や就学後の教育環境等において、健やかに過ごせるよう学識経験者が園を訪問し、援助方法等を支援。
- ◆外あそび事業  
区内の地域団体と連携し、教育総合センターのひろばや区立幼稚園の園庭を活用した外あそび事業を実施。

| 開催日           | テーマ              |
|---------------|------------------|
| 令和6年 6月8日（土）  | 色水遊び・どろ遊び        |
| 7月18日（木）      | 工作・お絵描き、水遊び、どろ遊び |
| 11月30日（土）     | 落ち葉プールと季節の工作遊び   |
| 令和7年 1月24日（金） | 冬の寒さとぽかぽか焚火遊び    |



落ち葉プール

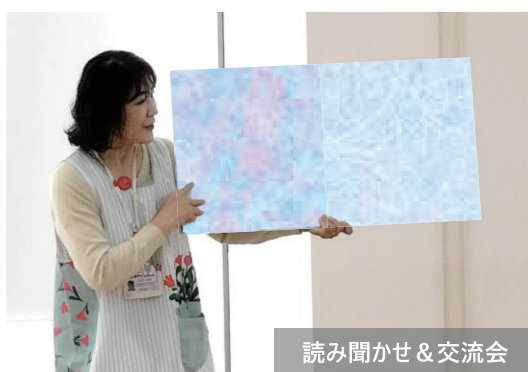
## 3 家庭教育の支援（家庭教育・子育て支援のための講座、ワークショップ等）

- ◆すくすくコンパス  
乳幼児が、生活習慣等の基本的なライフスキルを向上させるほか、保護者が子育ての喜びや楽しさを感じられるような各種講座を開催。

| 開催日           | テーマ                        |
|---------------|----------------------------|
| 令和6年 6月13日（木） | 子どもの権利～赤ちゃんとお始める家族の根っこづくり～ |
| 10月20日（日）     | こどものいる暮らし～お父さん編～           |
| 11月9日（土）      | おうちでの性教育                   |
| 12月14日（土）     | 子どものメディアとの付き合い方            |

- ◆すくすく広場  
豊かな親子関係づくりと子どもたちの健やかな成長に向けて、乳幼児の資質・能力を伸ばすためのワークショップ等を実施。

| 開催日           | テーマ                         |
|---------------|-----------------------------|
| 令和6年 5月9日（木）  | 読み聞かせ & 交流会                 |
| 5月25日（土）      | 子育てコーチングワークショップ／積み木のワークショップ |
| 7月8日（月）       | 読み聞かせ & 交流会                 |
| 8月3日（土）       | こころ・からだ・性のことを親子で学んでみよう！     |
| 令和7年 1月18日（土） | 赤ちゃんとお楽しむ絵本の世界～読み聞かせと交流会～   |
| 3月22日（土）      | 子育てコーチングワークショップ／積み木のワークショップ |



読み聞かせ & 交流会

## 令和6年度 乳幼児教育支援センター研修実績

|               | 研修名                         | 対象              | 講師名                                  | 受講者数              |
|---------------|-----------------------------|-----------------|--------------------------------------|-------------------|
| 人権            | 初任者研修（幼保小中合同研修）             | 初任者             | 佐々木 掌子（明治大学）                         | 81                |
|               | 子どもの権利研修                    | 全職員             | 倉石 哲也（武庫川女子大学）                       | 135               |
| 保育<br>実践      | 乳児保育研修（全2回）                 | 基礎ステージ職員        | 堀 科（東京家政大学）                          | ①115<br>②107      |
|               | 幼児教育研修（全2回）                 | 基礎ステージ職員        | 田代 幸代（共立女子大学）                        | ①92<br>②89        |
|               | 特別支援教育研修（全2回）               | 基礎ステージ職員        | 若月 芳浩（玉川大学）                          | ①78<br>②74        |
|               | 保育充実研修Ⅰ<br>『子どもの心に寄り添う保育とは』 | 基礎ステージ職員        | 柴田 愛子（りんごの木子どもクラブ）                   | 122               |
|               | 保育充実研修Ⅱ<br>『子どもの遊びが広がる環境とは』 | 基礎ステージ職員        | 石井 章仁（大妻女子大学）                        | 90                |
|               | 専門研修Ⅰ『発達と遊び』                | 中堅ステージ職員        | 古賀 松香（京都教育大学）                        | 120               |
|               | 専門研修Ⅱ『環境の構成と援助』             | 中堅ステージ職員        | 田澤 里喜（玉川大学）                          | 128               |
|               | 専門研修Ⅲ『保育の記録』                | 中堅ステージ職員        | 河邊 貴子（聖心女子大学）                        | 95                |
|               | 専門研修Ⅳ『保護者との関係づくり』           | 中堅ステージ職員        | 松原 美里<br>（合同会社ウメハナチャイルドケアコミュニケーションズ） | 105               |
|               | 教育・保育実践コンパス研修               | 全職員             | 無藤 隆（白梅学園大学）                         | 81                |
|               | コンパスワークショップ<br>～保育を語り合おう～   | 全職員             | 遠藤 純子（昭和女子大学）                        | 73                |
|               | 園評価研修（全2回）                  | 中堅ステージ<br>以上の職員 | 松山 洋平（和泉短期大学）                        | ①76<br>②70        |
|               | 幼保小接続推進研修                   | 全職員             | 箕輪 潤子（武蔵野大学）                         | 108               |
| 園<br>運営       | 管理職研修<br>『保育の質向上のための業務改善』   | 管理職<br>ステージ職員   | 菊地 加奈子<br>（社会保険労務士法人 ワーク・イノベーション）    | 138               |
|               | マネジメント研修（全2回）               | 中堅ステージ<br>以上の職員 | 坂田 哲人（大妻女子大学）                        | ①96<br>②89        |
| 危機<br>管理      | 保育の安全研修                     | 基礎ステージ職員        | 遠藤 登（株式会社保育安全のかたち）                   | 108               |
|               | リスクマネジメント研修 基礎              | 中堅ステージ<br>以上の職員 | 関川 芳孝（大阪公立大学）                        | 89                |
|               | リスクマネジメント研修 発展              | 基礎受講済みの施設       | 関川 芳孝（大阪公立大学）                        | 66                |
| 保健<br>・<br>食育 | 食物アレルギー対応研修（全3回）            | 全職員             | 平井 聖子（国立成育医療研究センター）                  | ①54<br>②39<br>③46 |
|               | 保育保健研修Ⅰ<br>『赤ちゃんから始める性教育』   | 全職員             | 岩佐 寛子（東京都助産師会）                       | 140               |
|               | 保育保健研修Ⅱ<br>『職員のメンタルケア』      | 全職員             | 中内 麻美（相模女子大学）                        | 104               |
|               | 食育研修Ⅰ<br>『乳幼児の食べる機能と発達』     | 全職員             | 内海 明美<br>（昭和大学歯学部口腔衛生学講座）            | 139               |
|               | 食育研修Ⅱ<br>『食を通じて子どもの育ちを考える』  | 全職員             | 野口 孝則（上越教育大学）                        | 118               |

合計 3,065名



## 令和6年度 講師一覧 (50音順・敬称略)

### モデル研究

『園・校における架け橋期の教育の充実』

箕輪 潤子 (武蔵野大学)

『園の教育・保育の評価 (自己評価を中心として)』

遠藤 純子 (昭和女子大学)

鈴木 祥子 (昭和女子大学)

大澤 洋美 (東京成徳短期大学)

小坂田 摩由 (東京成徳短期大学)

松山 洋平 (和泉短期大学)

星 早織 (和泉短期大学)

### 実践充実コーディネーター

#### 〈コーディネーター〉

石井 章仁 (大妻女子大学)

井上 眞理子 (洗足こども短期大学)

岩田 恵子 (玉川大学)

遠藤 純子 (昭和女子大学)

坂田 哲人 (大妻女子大学)

佐藤 有香 (和洋女子大学)

田澤 里喜 (玉川大学)

坪井 瞳 (東京成徳大学)

深津 さよこ (聖徳大学)

堀 科 (東京家政大学)

松山 洋平 (和泉短期大学)

#### 〈バディ〉

大村 あかね (浦和大学)

尾根 秀樹 (洗足こども短期大学)

加藤 翼 (洗足こども短期大学)

亀ヶ谷 元譲 (宮前おひさまこども園)

鈴木 祥子 (昭和女子大学)

伊藤 路香 (洗足こども短期大学)

飯村 愛 (洗足こども短期大学)

上田 よう子 (玉川大学)

近藤 有紀子 (十文字学園女子大学)

室井 眞紀子 (東京都市大学)

尾根 秀樹 (洗足こども短期大学)

星 早織 (和泉短期大学)

#### 〈スーパーバイザー〉

大豆生田 啓友 (玉川大学)

無藤 隆 (白梅学園大学)

### 乳幼児教育アドバイザー

赤坂 榮 (元聖徳大学)

高橋 かほる (帝京短期大学)

西 智子 (元日本女子大学)

古川 由紀子 (聖徳大学短期大学部)

